

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府 (あやめユニット)
所在地	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10-1
自己評価作成日	平成21年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々とおしゃべりしたり、家事をしたり、一緒の時間を大事にしています。笑いに満ちたひと時を大切に、ゆったり、安心の苑づくりをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が話し合い、理念を簡潔で分かりやすい言葉に置き換えて、目に付きやすい居間や台所に掲げて意識を持って支援に当たっている。利用者の方はハミングしながら室内を行き来したり、来訪者に気軽に話しかけるなどのびのびした様子で過ごしている。また当事業所では週に一度医師と看護師による訪問診療が行われており、保健、医療面でも利用者、家族の安心感を確保していることが家族アンケートから見て取れる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21年 9 月 24 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎ苑利府)「あやめ ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、理念についての話し合いを行い、共通認識を持つよう努めている。具体的な標語の形にして実践につなげている。	理念を日々の介護支援に生かすにはどうしたら良いか話し合い、職員自ら考え、分りやすい言葉に置き換えて 目に付きやすい台所や居間に掲げて、意識を持って支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、町内会に加入しようと努力している。が、交流までいたっていない。	ボランティアや近くの高校の地域交流授業を受け入れたりしている他、地域交流をさらに広げるための一助として、町内会に加入したいとの希望を持って努力しているが実現が難しいとしている。	当事業所をよく知ってもらうため、見学・相談会の開催を計画している。今後も続け事業所主催の行事などにも近隣の方の参加を呼びかける等の働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、積極的に活かされているとは言えないが、電話での相談や、来苑されての相談等には入居にこだわらず、支援方法を一緒に考えるなど相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の職員の方には常に参加していただき、又地域の方々の参加も加わり、意見交換と共に、実情を知っていただいている。苑を知っていただくことからボランティア参加へとつながっている。	幅広いメンバーが集まり、双方向的な会議となっていたが、現在は行政側の参加が得られていないので管理者は苦慮している。	事業所は、今年度会議開催を六回予定しているが、毎回役場担当者又は地域包括支援センターの参加が望ましいので、事業所としては是非参加をしてもらえるよう働きかけて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことや、相談したいことがある時には、連絡や、相談できる関係が築けている。例えば、食事の栄養面の相談・生活保護の方の相談など。	給付関連や行政面での相談の他、栄養面について町の栄養士の指導を受け、献立の偏りに気づき改善された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象事項はおおむね理解、拘束しないケアを実践している。日中は玄関に施錠せず、チャイムをつけることで、玄関の出入りを確認している。又、利用者の外出傾向をつかみ対応している。	日中玄関の施錠はしていない。外出傾向の利用者がいるため確認のためのチャイムを使用している他、出入りの車に徐行のお願いの張り紙をするなど対策を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、折にふれ朝礼時や、全体会議で、話をしたり、事件記事を回覧するなどして、注意を払っているが、ゆっくり学ぶ機会まではとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識として、知っている域で、学ぶ機会まではとれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をかけ、説明して、契約締結している。また、不明点があれば、いつでも尋ねてくださるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へアンケート箱の設置・家族会の開催・ご家族を交えての行事・運営推進会議へのご家族の参加などで、話を出しやすい機会や場を設けている。来苑時にはスタッフに声をかけやすい雰囲気づくりにつとめている	家族が来所した折に意見などを聴いている、又玄関にアンケート箱を設けている。家族からの意見で、職員の名前と顔写真を玄関に貼り、家族にとって、顔と名前が一致した効果があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・半年に1回の個人面談にて聴く機会を設けている。すぐには反映されないが、本社にきちんと話はおとるようになっている。	夜勤手当の要望や、福利厚生に関する意見などが出された。意見は本社に通じるシステムになっており、要望に応じて一泊の社員旅行が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見をもとに少しずつ職場環境・条件の整備につとめている。また、向上心を持って、働けるよう、外部研修などもうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修の機会を設けている。また、他のグループホームを訪問したり、交流を持ち、自分の苑のありかたを考えってもらう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形や古川のやすらぎ苑と行き来したり、グループホームのネットワークに参加し、情報交換や勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを知るために本人の声を聞いた り、行動から読みとる努力をしている。言葉 を言葉の意味そのものだけでなく置き換え ていることもあるため、常に考え、知る努力 をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	解決できるよう小さなことでも他のスタッフ 等と意見を出し合い、利用者が安心して生 活できるよう皆でとりくんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としている支援を見極めるた め、言葉や行動より状況観察し、また、ご家 族の話をよく聴くようつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たとえばご本人の以前の生活の様子を聞き、 マナーや作法を教えてもらうなどして、 学ぶと同時にパワーをいただく関係を築い ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご本人が安心して生活できるようにどうし たらいいのかを考え、家族にも意見を提案 したり共に考えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や物は特に安心できるものの 一つと考え、情報収集に努め、サポートでき るようとりくんでいる。	以前住んでいた地域の公園に行ったり、希 望する理容室へ行けるようにするなどの支 援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	相性なども考えながらお互い話せるよう、時 にはスタッフが間にはいって関わりを持てる よう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援の例はまだないが、ご家族が苑にいらしてくれたり、近所で会うと声をかけてくれたりと良い関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの自己満足にならないよう常に、どのような生活を望んでいるのか考え、アプローチしていく。	発語が不自由で、思いや意向がどうしても分からない時は家族に相談し把握する努力をしている。その結果、墓参りや畑仕事など本人が希望している事が分り、それらの支援をすることにより、気持ちの安定に繋がった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など記入シートをもとに本人やご家族から生活の様子を聞く。ご本人の行動からも読み取っていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のリズムをもとに出来ること、できないことだけでなく、得意なこと・好きなものなど知るようつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	困っていることや生活に活かせるようなものなど、常に考え、話し合い、安心していきいきと生活できるよう解決に向けて努めている。	家族の意見や、カファレンス会議で職員の意見を聞き、介護計画を立てている。一日の支援の流れを観察し、状況に応じて計画の見直しを随時行っているが、月一度のモニタリングもして頂きたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に1日の様子を記入する他にこのような関わりは良かった・失敗取組の原因は何かなどお互いに共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員はご本人に今何が出来るかを常に考え、とりにくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に活用しているとまではいかない。外出で、近くの店に散歩がてら行ったり、役場に行ったり、外食をすることで、地域になじむところからは始めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療をお願いしているので、生活の中でのご本人を知っていただけている。毎週いらっしゃるので、こまめに、情報のやりとりができ、状況が急変した時は携帯電話でドクターと直接話せるしくみができている。	殆どどの利用者が契約医療機関の医師と看護師による訪問診療を受け、相談できる体制がある。希望により従来からのかかりつけ医の診療を受ける時には、本人の現況を説明し、又医師からの助言等も記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、1週間に1度訪問看護師がきて、状況を把握している。また、相談は訪問以外でも、24時間いつでも対応してくれるしくみになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は頻回にはなく、病院も同じところとは限らないが、ご家族を通して、また、病院の相談員をとおして情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族とは入居の段階で、ある程度話し合い、文書にして双方もっている。が、ご家族の間では中々イメージしにくいようである。重度化については文書の取り交わしまではいたっておらず、状況を説明・共有することどまっている。	入居時に一般的な終末期の状況を説明し、話し合った上で「終末期における覚書」文書を取り交わしているが、意思確認書の取り交わしをするには至っていない。	状況変化している利用者の方もおられるので、本人と家族、医師、看護師等の意見を聴き、意思確認書を作成して、終末期に対する家族と事業所の方針の統一を図っておくことが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行うまではいかず、都度つど口頭での話や、目で見える資料にとどまっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に何回か避難訓練を実施することで、全職員が身につけるよう努めている。が、地域との協力体制を築いているとはいえない。地域のご家族には支援をいただくよう理解を得ている。	夜間想定を含め、年二回防災避難訓練と他に自主訓練を行っている。災害時には近くの利用者家族に協力への理解を得ている。非常用食料の備蓄をしており、スプリンクラーの設置を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に対応や言葉づかいに注意し、人生の先輩として受け入れる対応をしている。	利用者は人生の先輩である事を常に念頭に置き、日々の支援をしている。職員は穏やかな口調で接し、スピーチロックなどは見られない。利用者はのびのび生活している様子が感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望んでいることを知るよう声かけを工夫したりサポートできるようつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ、1日の流れを把握し、メリハリある生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔を洗う、髪を整えるといった当たり前のことがおろそかにならないようサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食物を知ることや調理手伝いを通して、一緒に生活していることを実感できるようにサポートしている。	職員と食卓を囲み、必要な方は介助を受けながら和やかな食事風景である。又利用者はテーブルセッティングや食後のテーブル拭きなど出来る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態にあわせ、食べる量を調節したり、水分量も把握し、ゼリーなどでも水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は歯磨きをしていただくよう声かけなどして、本人の力に応じた口腔ケアができるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声かけや、誘導などで、なるべくトイレでの排泄が行えるようサポートしている。	入居時にオムツをしていた方も、トイレでの排泄を目指し適切な声かけの努力の結果、オムツを外すことが出来た。現在日中オムツをしている方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分不足、食事の摂取状態など、多方面から考え、定期的に排便できるようサポートしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持だけでなく、気持ちよく入浴してもらえるよう声かけを工夫したり、本人のペースを大切に考慮し、入浴の無理強いはいはないが、いろいろなアプローチをこころみる支援はしている。	希望があれば毎日、いつでも入浴できる態勢であるが、基本は一日置きである。入浴を拒む方には、声かけの工夫で入っていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう環境を整えるだけでなく昼間どのように生活(活動)できれば夜安眠できるかを考え、サポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書などで把握し、利用者の状態に合わせて、相談変更したり、薬の効果をみながらサポートしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に情報収集につとめ、めりはりのある生活の中で、楽しめるものを一緒にみつけながらサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室内だけの生活だけでなく、積極的に外出し、買い物をしたり、花見に行ったり、馴染みの場所にてかけたりする。	日常的な散歩や買い物の外出には人手が要ることが悩みであるが、季節に合わせ車で隣の公園や栗拾いなどに出かけている。外出は少ない傾向にあるので、地域の認知症サポーターの協力を得るなどの方策も考えられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できないながらお金を持っていないと不安な方には、安心するような声かけや、小額をもってもらうことで、落ち着ける環境をつくり、徐々にお金の執着を解いていくよう働きかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑の電話はプッシュ式なので電話をしたときは職員が相手方を呼び出してから、話してもらうように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温の変動に体調が左右されるので、温度調整には注意している。共用の空間では入居者が採ってきた畑の野菜や草花などがざり、季節を味わえるよう工夫している。	職員の会話のトーンは穏やかである。空気の澁みや臭気は感じられない。季節の生花が活けられ、居間の時計やカレンダーは見やすい位置に掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他にソファがあり、自由にすわったり、他の方と関われる空間を大事にしている。また、外の玄関脇にイスを置き、夕涼みや外出モードの方が休める空間を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや伴侶・子供・孫の写真を貼るなどして、ご本人の希望を大切に安心して過ごせる居室づくりをサポートしている。	使い慣れた家具等の持ち込み品の多い方も少ない方もその人らしくしつらえられている。家族の協力でたたみを敷き、布団で休む利用者の方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで動きやすい環境づくりになっている。入居者がわかりやすいよう「トイレ」や「お便所」など馴染みある言葉で表示するなど工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436		
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府(すみれユニット)		
所在地	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10-1		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成21年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方の変化を受け入れながら、ゆったり、安心して、笑い声の多い苑づくりをしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日々状態の変化する利用者を受け入れながら、ゆったりと安心して笑顔で過ごすことをモットーにしている。職員は利用者や家族の要望に柔軟に対応しており、利用者の方はのびのびした様子で明るい笑顔を見せている。当事業所では、週に一度医師と看護師による訪問診療が行われ、保険・医療面でも利用者、家族の安心感を確保していることが家族アンケートから見て取れる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細) (事業所名 やすらぎ苑利府)「すみれ ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、理念についての話し合いを行い、共通認識を確認しながら、理解に努めている。さらに理念が実践の中に活かされるようカンファ時にどうしていったらいいかを話し合っている。	理念を日々の介護支援に生かすにはどうしたらいいか話し合い、職員自ら考え、分りやすい言葉に置き換えて 目に付きやすい台所や居間に掲げて、意識を持って支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、町内会等に参加しようと努力している。が、交流までいたっていない。	ボランティアや近くの高校の地域交流授業を受け入れたりしている他、地域交流をさらに広げるための一助として、町内会に参加したいとの希望を持って努力しているが実現が難しいとしている。	当事業所をよく知ってもらうため、見学・相談会の開催を計画している。今後も続け事業所主催の行事などにも近隣の方の参加を呼びかける等の働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、積極的に活かされているとは言えないが、電話での相談や、来苑されての相談等には入居にこだわらず、支援方法を一緒に考えるなど相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の職員の方には常に参加していただき、又地域の方々の参加も加わり、意見交換とともに、実情を知っていただいている。苑を知っていただくことでボランティア参加へとつながっている。	幅広いメンバーが集まり、双方向的な会議となっていたが、現在は行政側の参加が得られていないので管理者は苦慮している。	事業所は、今年度会議開催を六回予定しているが、毎回役場担当者又は地域包括支援センターの参加が望ましいので、事業所として是非参加をしてもらえよう働きかけて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことや、相談したいことがある時には、連絡や、相談できる関係が築けている。例えば、食事の栄養面の相談・生活保護の方の相談など。	給付関連や行政面での相談の他、栄養面について町の栄養士の指導を受け、献立の偏りに気づき改善された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象事項はおおむね理解、拘束しないケアに取り組んでいる。特に、日中は玄関に施錠をせず、チャイムをつけることで、玄関の出はしりを確認している。また、利用者の外出傾向をつかみ対応している。	日中玄関の施錠はしていない。外出傾向の利用者がいるため確認のためのチャイムを使用している他、出入りの車に徐行のお願いの張り紙をするなど対策を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、折にふれ朝礼や、全体会議で、話をしたり、事件記事を回覧するなどして、注意をはらっているが、ゆっくり学ぶ機会まではとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識として、知っている域で、学ぶ機会まではとれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間をかけ、説明して、契約締結をしている。また、わからないことがあれば、いつでも尋ねてくれるよう、お願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へアンケート箱の設置・家族会の開催・ご家族を交えての行事・運営推進会議へのご家族の参加などで、話を出しやすい機会や場を設けている。	家族が来所した折に意見などを聴いている、又玄関にアンケート箱を設けている。家族からの意見で、職員の名前と顔写真を玄関に貼り、家族にとって、顔と名前が一致した効果があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の全体会議・半年に一回の個人面談にて聴く機会を設けている。すぐには反映されないが、本社にきちんと話はおとるようになっている。	夜勤手当の要望や、福利厚生に関する意見などが出された。意見は本社に通じるシステムになっており、要望に応じて一泊の社員旅行が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見をもとに少しずつ職場環境・条件の整備に努めている。また向上心を持つてはたらせるよう、外部研修など設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修の機会を設けている。また、他のグループホームを訪問したり、交流を持ち、自分の苑のありかたを考慮してもらい機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形や古川のやすらぎ苑と行き来したり、グループホームのネットワークに参加し、情報交換や勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のペースに合わせ、寄り添いをしながら、小さな表情の変化も感じ取るところから、安心確保の関係づくりをすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にゆっくり話を聴くことから、はじめ、率直に話をさせていただきながら、信頼していただく関係づくりに努めている。また、いつでも相談を受けられるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に、ご本人が必要としている支援を見極めるために、毎日の様子・生活状況を職員間でつなげて考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する側にたらず、時には人生の先輩としてアドバイスをもらったり、お説教をいただいたり、一緒に家事をするなどして、共に暮らす関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑にご家族がいらしたときは部屋でゆっくり団らんしていただいたり、年に2回一緒に行事を楽しむ機会を設けたりして、絆を継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や物は特に安心できるものの一つと考え、情報収集に努め、サポートできるように取り組んでいる。	以前住んでいた地域の公園に行ったり、希望する理容室へ行けるようにするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う、うまが合う、話好き、聞き上手など、関係性を考え、関わりを大切にした支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援の例はまだないが、ご家族が苑にいらしてくれたり、近所で会うと声をかけてくれたりと良い関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様子や言動、わかる範囲の生活歴などから希望や意向の把握に努めている。	発語が不自由で、思いや意向がどうしても分らない時は家族に相談し把握する努力をしている。その結果、墓参りや畑仕事など本人が希望している事が分り、それらの支援をすることにより、気持ちの安定に繋がった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りに努めているが、ご家族もわからないことがままある。毎日の関わりの中でご本人がふっともらす言葉などからも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤から日勤帯への申し送り、毎日の水分量・食事量・排泄状況などから総合して、現状把握しながら、過ごし方を見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点にたつよう努めているが、特に地域の中での暮らしとして具体的に盛り込むまでにはいたっていない。ご家族と話し合いはするが、家族の評価をもとに月に1度の見直しにまではいたっていない。	家族の意見や、カフェレンス会議で職員の意見を聞き、介護計画を立てている。一日の支援の流れを観察し、状況に応じて計画の見直しを随時行っているが、月一度のモニタリングもして頂きたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別で記入し、職員で共通理解するひとつのツールにしている。その他に月2回のカンファで、話し合い実践や、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ、その時々生まれるニーズの対応に取り組んでいるが、サービスの多機能化にとりくんではいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に活用しているとまではいかない。外出で、近くの店に散歩がてら行ったり、役場に行ったり、外食をすることで、地域になじむところからは始めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療をお願いしているので、生活の中でのご本人を知っていただけている。毎週いらっしゃるのでこまめに情報のやりとりができ、状況が急変したときは携帯電話でドクターと直接話せるようにしくみが整っている。	殆んどの利用者が契約医療機関の医師と看護師による訪問診療を受け、相談できる体制がある。希望により従来からのかかりつけ医の診療を受ける時には、本人の現況を説明し、又医師からの助言等も記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、1週間に一度訪問看護師がきて、状況を把握している。また、相談は訪問以外でも、24時間いつでも対応してくれるしくみが整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は頻回にはなく、病院も同じところとは限らないが、ご家族を通して、また病院の相談員をとおして情報交換につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族とは入居の段階で、ある程度話し合い文書にして双方持っている。が、ご家族の間では中々イメージしにくいようである。重度化については文書の取り交わしまでにはいたっておらず、状況を説明、共有するにとどまっている。	入居時に一般的な終末期の状況を説明し、話し合った上で「終末期における覚書」文書を取り交わしているが、意思確認書の取り交わしをするには至っていない。	状況変化している利用者の方もおられるので、本人と家族、医師、看護師等の意見を聴き、意思確認書を作成して、終末期に対する家族と事業所の方針の統一を図っておくことが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行うまではいかず、都度つど、口頭での話や、目でみる資料にとどまっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に何回か避難訓練を実施することで、全職員が身につけるよう努めている。が、地域との協力体制を築いているとまではいえない。地域のご家族には支援をいただくよう理解を得ている。	夜間想定を含め、年二回防災避難訓練と他に自主訓練を行っている。災害時には近くの利用者家族に協力への理解を得ている。非常用食料の備蓄をしており、スプリンクラーの設置を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを尊重し、ご本人の意向がない限り、ちゃんづけはしないようにしている・居室に入る時は、了解を得、ノックをしてはいる・など誇りやプライバシーを損ねないようにつとめている。	利用者は人生の先輩である事を常に念頭に置き、日々の支援をしている。職員は穏やかな口調で接し、スピーチロックなどは見られない。利用者はのびのび生活している様子が感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案するときには、多すぎない選択肢をあげ、意志をあらわしたり、自己決定できるよう働きかけている。たとえば、2,3種類のゼリーを選んでもらったり、お菓子を選んでもらったりなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や、起床時間は一応、決まっているが、体調にあわせ、ずらしてご本人のペースですごしていただく・ドライブや、ゲームなど提案しても、意向を聴き、または、察し、無理のない支援につとめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマを上着と勘違いして、きていることもあるが、気に入っていれば、素敵な部分をほめ、ある程度満足したところで、別の服をすすめるというように満足を味わっていただくよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	例えばおはぎが食べたいと話が出た時は、準備をして、出来る方々に手伝っていただき、手作りの過程から、食事を楽しんでいただく工夫に努めている。	職員と食卓を囲み、必要な方は介助を受けながら和やかな食事風景である。又利用者はテーブルセッティングや食後のテーブル拭きなど出来る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に記入欄をもうけ、毎日きちんと記録。一人ひとりの状態等把握し、確保できるように支援につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食まではいかないが、朝と就寝時にはご本人の力に応じた口腔ケアを実践・また、週に一度、ご家族の意向があった方には訪問歯科より、口腔ケアの指導を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ぬれたままの不快感を考え、パット・リハビリパンツは利用している方が多いが、ご本人の排せつパターンを知り、誘導、トイレにて、排尿・排便できるよう支援している。	入居時にオムツをしていた方も、トイレでの排泄を目指し適切な声かけの努力の結果、オムツを外すことが出来た。現在日中オムツをしている方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は排便表をつくり、スムーズに排便できるよう、寒天を食べていただいたり、軽く歩いていただいたり、支援につとめている。また、ドクターと相談マグネシウムやラキソベロンもひどい便秘時には使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は大事なので、希望やタイミングに合わせて入浴していただくのはもちろん、いやの言葉をうのみにせず、いろいろなアプローチで、入浴を楽しんでもらう努力をしている。	希望があれば毎日、いつでも入浴できる態勢であるが、基本は一日置きである。入浴を拒む方には、声かけの工夫で入っただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強いときは横になっていただく・ご自分で動けない方は定期的に横になっていただくなど、その時の状況に合わせて、支援、また、ご本人の意向で休息をとっていただく・就寝時には、眠くないときには無理に寝かせないで、眠くなるまで目を覚まして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は夜勤時夜勤者が次の分をチェックする仕組みをつくり、薬を理解できるようにしている。又月に一度薬剤師の指導時に薬に関して、情報交換をすることで、薬の効き目など確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	刺し子や塗り絵の楽しみ事・散歩・また、あんこものを食べて楽しめる方など、一人ひとりの楽しみを盛り込めるよう支援につとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難でも車イスで散歩に出かけている・なじみの地域まで、ドライブしたり、外食にでかけたり、クリ拾いに遠くの山まで出かけるなど、外出支援をしている。	日常的な散歩や買い物の外出には人手が要ることが悩みであるが、季節に合わせ車で隣町の公園や栗拾いなどに出かけている。外出は少ない傾向にあるので、地域の認知症サポーターの協力を得るなどの方策も考えられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を管理できる方はおらず、小遣いは苑でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑の電話はプッシュ式なので、職員が相手方を呼び出してから、話してもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特にスタッフの動きや声の速さ・トーンなども環境の一部であることを留意し、落ち着いた空間になるよう配慮している。換気にも配慮し、空気の淀みがないよう気をつけている。	職員の会話のトーンは穏やかである。空気の淀みや臭気は感じられない。季節の生花が活けられ、居間の時計やカレンダーは見やすい位置に掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいす・小上がりスペースなどを利用して、なじみの関係・一人の空間・スタッフとの関係づくりなどを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族になじみのものを最低一つ持ってきていただき、ベッドか、布団にするかは、ご本人の能力と生活習慣を考慮して、配置している。	使い慣れた家具等の持ち込み品の多い方も少ない方もその人らしくしつらえられている。家族の協力でたたみを敷き、布団で休む利用者の方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	くずかご・ペーパータオルの置き場所・行事の写真掲示・カレンダー・時計などの配置・段差なしのフロア・手すりなど、安全な環境づくりにつとめている。		